

病院の 実力

～埼玉編 108

膝の靭帯損傷は、スポーツで見られる大げだ。治療には専門的な医学知識や技能が必要とされる。一覧表には、日本整形外科学会の専門医の中でスポーツ外傷などに関する研修を受けた認定スポーツ医の人数（常勤、非常勤の合計）や手術件数などを掲載した。

前十字靭帯は、前後に動いたり、回ったりする際に膝を安定させる重要な働きを担う。損傷はジャンプ、ターンなど瞬間的に大きな力がかか

病院の実力「スポーツ外傷」

医療機関別治療実績（読売新聞調べ）

医療機関名	認定スポーツ医(人)	膝前十字靭帯再建手術(件、2015年)	膝後十字靭帯再建手術(5年間の件数)	膝関節靭帯安定性測定器(○はあり)	等速性筋力評価訓練器(○はあり)
埼玉					
独協医大越谷	7	5	6	○	○
上尾中央総合	1	20	1	○	○
たなか整形外科ク	1	15	0		○
国・西埼玉中央	1	8	1		
加藤整形外科	1	0	0		○
西大宮	0	37	0		
埼玉医大総合医療セ	0	36	13	○	○
群馬					
慶友整形外科	5	83	4	○	○
善衆会	2	229	39	○	○
群馬大	1	10	10	○	○
済生会前橋	0	0	0		○
千葉					
船橋整形外科	8	356	11	○	○
習志野第一	8	8	0		
千葉大	5	50	15	○	○
亀田総合	4	42	4	○	○
東邦大佐倉	3	43	12	○	
順天堂大浦安	3	41	10	○	
千葉メディカルセ	2	112	1※	○	○
勝浦整形外科ク	1	7	0	○	
白石整形外科ク	1	0	0		
帝京大ちば総合医療セ	—	6	90	○	○

「国・」は国立病院機構、「セ」はセンター、「ク」はクリニック。「—」は無回答または不明。※2014年12月～2015年12月の集計。

スポーツ外傷

関節鏡使い手術痕小さく

る時に起きることが多い。軽い場合は、損傷してから数週間でジョギングをできる程度に回復するが、膝が折れやす

くなるなど不安定な状態が残ることがある。思ったように回復しない場合、手術が選択肢となる。

膝前十字靭帯再建手術は、傷ついた靭帯の場所に、自分の膝にある腿の一部を移植する手術。最近では関節鏡を使う

ことで、手術痕が数センチ程度と小さくて済む。手術後3か月程度で移植した腿が骨に固定され、膝が安定する。スポーツができるまでには6か月以上かかる。

重傷の時は、膝の裏側にあたる後十字靭帯も一緒に損傷することがある。再建手術はより専門性が高い。

手術後のリハビリは回復を左右する。膝関節靭帯安定性測定器は安定性を客観的に測れる。また等速性筋力評価訓練器は筋力の回復具合が分かる。いずれも効果的にリハビリを進めるのに役立つ。

全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。次回は3月5日「災害拠点病院」の予定です。